

新国保制度の実施前に「健康」を学ぶ

国民健康保険事業運営研修会



京都府と本会主催の平成 29 年度国民健康保険事業運営研修会が 2 月 28 日、京都市上京区のホテルルビノ京都堀川で開かれ、各市町村の国保運営協議会委員や市町村、国保組合の担当者ら 62 人が参加した。

京都府医療保険政策課の安原孝啓担当課長が「50 年に一度の大改革といわれる新国保制度が 4 月からいよいよ始まりますが、京都府も市町村とともに保険者となり、財政運営の責任主体という大きな役割を担うことになりました。制度の基本となる部分をしっかりと支え、だれもが安心して必要な医療が受けられる環境づくりに向け、市町村や関係団体と連携、協力しながら取り組んでまいります」と開会挨拶した。

引き続き、安原氏が「市町村国民健康保険の都道府県単位化が目指すもの一京都府国民健康保険運営方針（平成 29 年 12 月策定）から一」と題して行政報告した。平成 30 年度以降の京都府の国保運営の指針となる「国保運営方針」を踏まえ、急激に保険料が変動しないようにする激変緩和措置や市町村が保険料を決める際の参考とする「標準保険料率」などについて説明。「平成 30 年度から激変緩和措置を適用しましたが、平成 31 年度以降については市町村と協議する中でできるだけ柔軟に対応していきたい。保険料率の統一については、中長期的には目指していくが、京都府は地域差が大きいので、すぐに統一するのは難しい」と府の考え方を述べた。

研修会では、あんず薬局管理薬剤師の守本真人氏が「明日の健康につながるお薬の話」、京都府健康対策

課担当課長の竹原智美氏が「健康長寿と健康課題～きょうと健康長寿・未病改善センター事業から見えてくるもの～」と題してそれぞれ講演した。

守本氏は、処方せんの内容について疑問点などがあった場合、処方医に問い合わせをする疑義照会など意外と知られていない薬剤師の仕事などを紹介しながら「身近な健康のサポート役として、かかりつけ薬剤師や薬局を普段からう



守本氏



竹原氏

まく活用していただきたい」と話した。竹原氏は、「府民の平均寿命は全国平均を上回っていますが健康寿命は全国 45 位とその差が大きい」と課題を指摘。数々の府民の健康データを示し「生活習慣病予防や運動習慣の定着など健康寿命の延伸に向け、効果的な保健事業を推進でき

るよう市町村を支援していきたい」と述べた。

本会の廣田吉昭副理事長が「19 世紀の米国の哲学者・エマーソンは『健康は第一の富』と述べています。21 世紀の現在にも通じる言葉だと感じます。この富を持続可能なものとするためにも、国保連合会といたしまして保険者の共同体として今まで以上に信託に応えられるよう事業に取り組んでいく決意です」と閉会の挨拶をした。